

GAP大賞2社表彰

都内で普及シンポジウム開催

(二財)日本GAP協

会はこのほど、シンポジウム「GAP JAPPA N2015」を都内で開催した。最初に、GAP普及大賞を獲得した日本コカ・コーラ(株)と菅農組(韓国)、特別賞の福島・まるせい果樹園の3事業者を表彰した。

増田寛也・日本創成会

議長は「人口動態からみた農村環境の未来」に

ついて講演した。増田氏

は「若い人を産業界で奪いあう」とした上で、「農業は広い年代が働ける産業」と分析。「雇用の場として魅力を高めていくべき。可能性のある産業」と語った。

もう一人の講演、EU農業総局農村振興担当課長のレオ・マイヤー氏は「農村振興の観点からみたEUの農業環境政策」について解説した。

基調講演では3氏が登壇した。宇根豊・農と自然の研究所代表は、「農本主義がもたらす美しい農村」表現されなかったものひとつの農の世界」

の題目で話した。宇根氏は「日本では風景に経済価値がない」と指摘。何らかの価値があるにもかかわらず、語りにくいこともあって表現されてこなかったのが原因という。価値を認識させるためには内外の眼差しを備えて、「農家自身が表現しようという気持ちにならない」とすける。そのためには、「GAPの規範に生物多様性や風景を入れる」のも一手法と話す。